

直近の感染状況及び医療提供体制の状況

1. 直近の感染状況 (別紙 1, 2)

新型コロナウイルス 新規感染者数について、全国的には、増加速度は低下しているものの、増加傾向が継続している。西日本など遅れて感染拡大となった地域では、増加幅が大きく、北日本など先行して感染拡大した地域の感染レベルを上回る場所もみられる。

中四国や九州などでは、全国より増加幅が大きく、10万人あたりで全国を上回っている。一方、北海道では減少傾向が継続しており、東北、北陸・甲信越では、横ばいから減少傾向となっている。また、高齢者施設と医療機関の集団感染は増加傾向が継続している。

今後の感染状況について、エピカーブや全国及び大都市の短期的な予測では、地域差や不確実性はあるものの、一部地域を除き多くの地域で増加傾向の継続が見込まれる。さらに、今後の免疫の減衰や、より免疫逃避能のある株の割合の増加、また、年末年始における接触機会の増加等が、地域の感染者数の推移に影響すると考えられるため注視が必要。

インフルエンザ 季節性インフルエンザについては、全国では同時期と比べ例年よりも低いが、直近2年間より高い水準にあり、足元で増加している。新型コロナウイルス感染症との同時流行を含め今後の推移に注意が必要。

※ 速報値では、岩手県 (2.84)、富山県 (1.33)、青森県 (1.25)、熊本県 (1.14)、東京都 (1.12)、神奈川県 (1.05)で先週の定点当たり報告数が1を超えている。

2. 直近の医療提供体制の状況 (別紙 3, 4)

病床使用率 全国的には、病床使用率は上昇傾向にあり、北日本や関東など多くの地域では5割を上回っており、7割を上回る地域も一部で見られる。重症病床使用率は、0～4割程度と地域差がみられ、総じて上昇している。

救急搬送困難事案 全国的に救急搬送困難事案数は増加しており、特に非コロナの搬送困難事案数が増加し、今夏の感染拡大のピークを超えている。今後の動向も踏まえつつ、年末年始の救急医療提供体制の確保には注意が必要。

<感染状況等と今後の見通し>

○ 感染状況について

- ・新規感染者数について、全国的には、増加速度は低下しているものの、増加傾向が継続している。西日本など遅れて感染拡大となった地域では、増加幅が大きく、北日本など先行して感染拡大した地域の感染レベルを上回るところもみられる。
- ・中四国や九州などでは、全国より増加幅が大きく、10万人あたりで全国を上回っている。一方、北海道では減少傾向が継続しており、東北、北陸・甲信越では、横ばいから減少傾向となっている。また、高齢者施設と医療機関の集団感染は増加傾向が継続している。
- ・全国の年代別の新規感染者数は、すべての年代で増加しており、人口あたりでは10代以下を始めとして若い世代が多く、他の年代よりも増加幅が大きくなっている。特に、遅れて感染拡大となった地域でその傾向が強くみられる。多くの地域では高齢者の新規感染者数の増加が進んでおり、全国では重症者数と死亡者数も増加傾向が継続しており、今後の推移に注意が必要。
- ・本年1月以降の小児等の死亡例に関する暫定報告にあるように、小児感染者数の増加に伴う、重症例、死亡例の発生に注意が必要である。また、小児の入院者数の動向にも注意が必要。
- ・季節性インフルエンザについては、全国では同時期と比べ例年よりも低い、直近2年間より高い水準にあり、足元で増加している。特に、岩手では定点医療機関当たり週間報告数で1を上回っている。

○ 今後の見通しについて

- ・今後の感染状況について、エピカーブや全国及び大都市の短期的な予測では、地域差や不確実性はあるものの、一部地域を除き多くの地域で増加傾向の継続が見込まれる。さらに、今後の免疫の減衰や、より免疫逃避能のある株の割合の増加、また、年末年始における接触機会の増加等が、地域の感染者数の推移に影響すると考えられるため注視が必要。
- ・季節性インフルエンザについても、新型コロナウイルス感染症との同時流行を含め今後の推移に注意が必要。

○ 感染の増加要因・抑制要因について

【ワクチン接種および感染による免疫等】 ワクチン接種の推進もあり、オミクロン株(BA.4-5)に対する免疫保持者割合は各年代で増加傾向がみられ、特に高齢者層ほど割合の増加が進んでいると考えられる。一方で、ワクチン接種と自然感染により獲得した免疫は、経時的に低下していくと考えられる。

【接触状況】 夜間滞留人口について、地域差がみられるが、東京や愛知、大阪などの20-22時滞留人口については、足元で感染発生後最多の水準で推移している。加えて、年末年始における接触機会の増加等が懸念される。

【流行株】 国内では現在BA.5系統が主流となっているが、BQ.1系統やXBB系統などのオミクロン株の亜系統は、より免疫逃避能があるとされ、海外で感染者数増加の優位性が指摘されている。特にBQ.1系統は国内で割合が増加しつつあり、注視が必要。

【気候・季節要因】 冬が本格化し全国的に気温の低下がみられ、換気がされにくい状況となっている。また、冬の間は呼吸器ウイルス感染症が流行しやすくなる。

○ 医療提供体制等の状況について

- ・全国的には、病床使用率は上昇傾向にあり、北日本や関東など多くの地域では5割を上回っており、7割を上回る地域も一部でみられる。重症病床使用率は、0~4割程度と地域差がみられ、総じて上昇している。
- ・介護の現場では、施設内療養の増加が継続しており、療養者及び従事者の感染もみられる。
- ・全国的に救急搬送困難事案数は増加しており、特に非コロナの搬送困難事案数が増加し、今夏の感染拡大のピークを超えている。今後の動向も踏まえつつ、年末年始の救急医療提供体制の確保には注意が必要。

直近（2022年第49週：12/5-12/11）のインフルエンザ動向

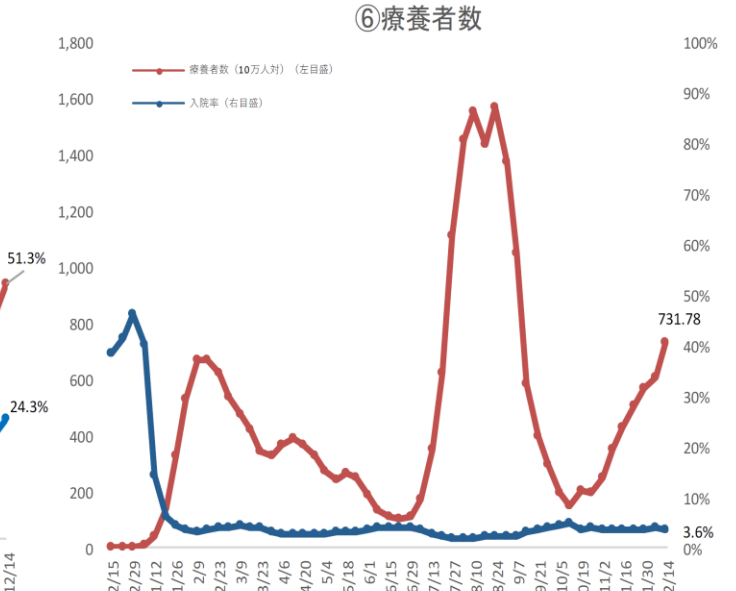
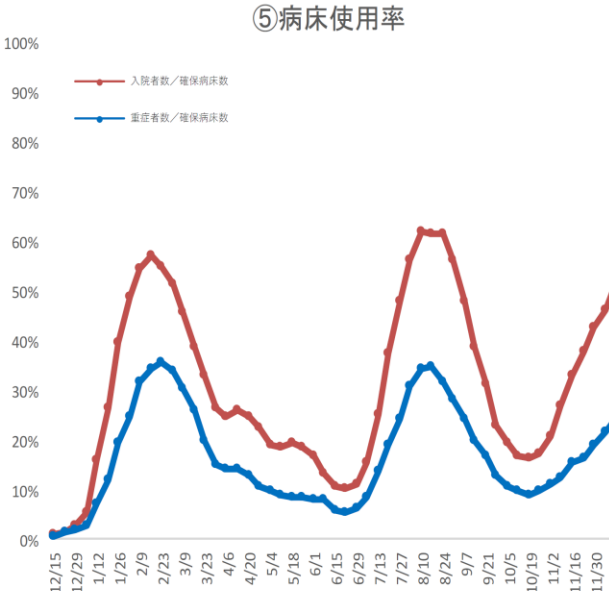
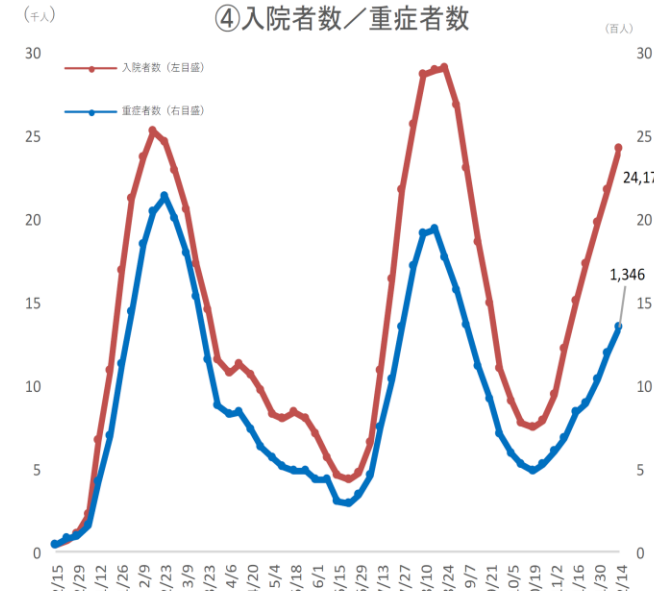
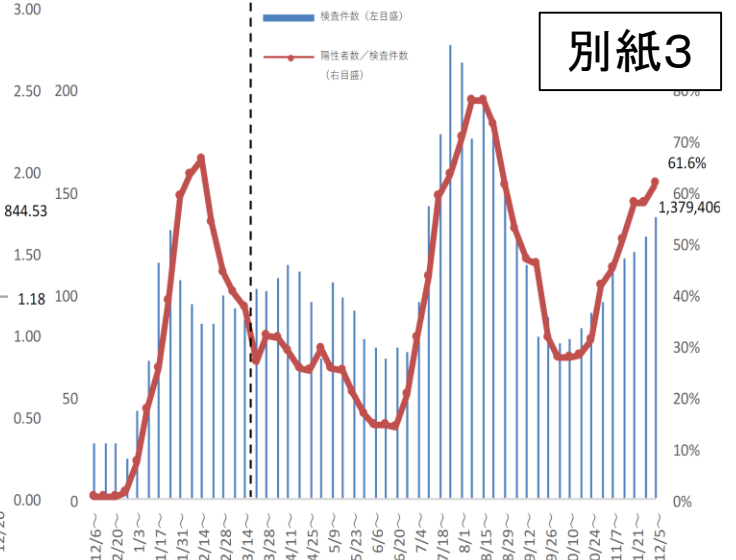
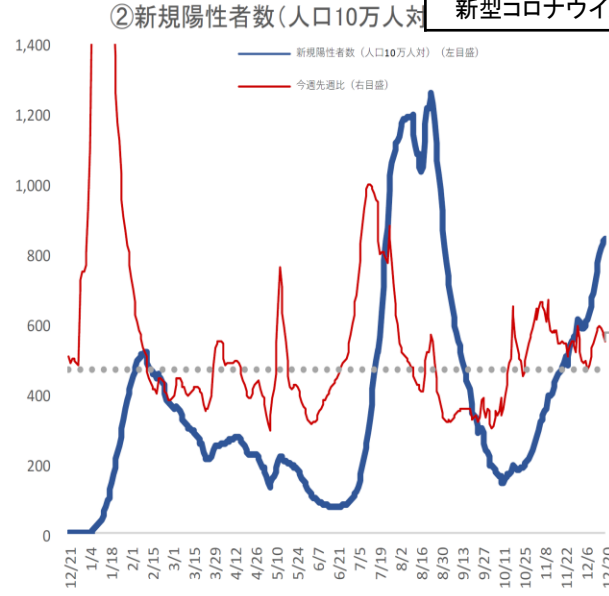
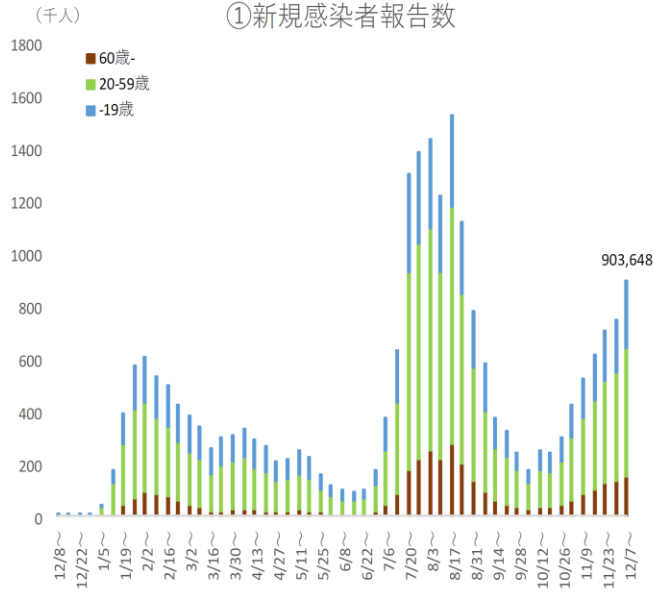


サーベイランス指標（情報源）	レベル*	トレンド*	コメント†
定点当たりのインフルエンザ受診患者報告数 （NESID、約5000定点）	低 (0.25)	増加	40週0.01、41週0.02、42週0.02、43週0.03、 44週0.06、45週0.08、46週0.11、47週0.11、 48週0.13、 49週0.25（昨年同週0.01）
全国の医療機関を1週間に受診した推計患者数 （NESID*、推計）	低	増加	約0.8万人（95%信頼区間：0.7～1.0万人） （前週約0.6万人、36週以降の累積約3.5万人）
急性脳炎サーベイランスにおけるインフルエンザ脳症 報告数（NESID、全数）	低	横ばい	8週にB型1例報告以降、 48週まで報告なし
基幹定点からのインフルエンザ入院患者報告数 （NESID、約500定点）	低	増加	40週0例、41週6例、42週3例、43週2例、 44週6例、45週2例、46週2例、47週2例、 48週5例、 49週12例（昨年同週3例）
病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出 報告数（NESID、約500の病原体定点）	低	微減	12月19日現在 、25週以降A(H3)複数、A(H1)1例 （データは毎日自動更新）
インフルエンザ様疾患発生報告数（全国の保育所・幼 稚園、小学校、中学校、高等学校におけるインフルエ ンザ様症状の患者による学校欠席者数）	低 （休校0、学年閉鎖4、 学級閉鎖21）	増加	集計開始した36週以降、休校0、学年閉鎖は9、 学級閉鎖68
国立病院機構におけるインフルエンザ全国感染動向 （全国140の国立病院機構各病院による隔週インフル エンザ迅速抗原検査件数、陽性数） （検査は、診察医師の判断による）	低 （11/16-30:検査数2933、 陽性数A7例/B0例、 陽性率0.2%）	検査数増加、陽 性数増加、陽性 率微減（解釈困 難）：前回から 更新なし	9/16-30：検査数1005、陽性数0(0.0%) 10/1-15：検査数1066、陽性数0(0.0%) 10/16-31:検査数1485、陽性数4(A3/B1例, 0.3%) 11/1-15：検査数1949、陽性数6(A6例, 0.3%)
MLインフルエンザ流行前線情報データベース （主に小児科の有志医師による自主的な インフルエンザ患者報告数【迅速診断検査】）	低 （新規：28例 （A27/B1例））	微増	12月19日現在 、8月以降、A型複数、B型5例 （データは毎日自動更新）

NESID：感染症発生動向調査

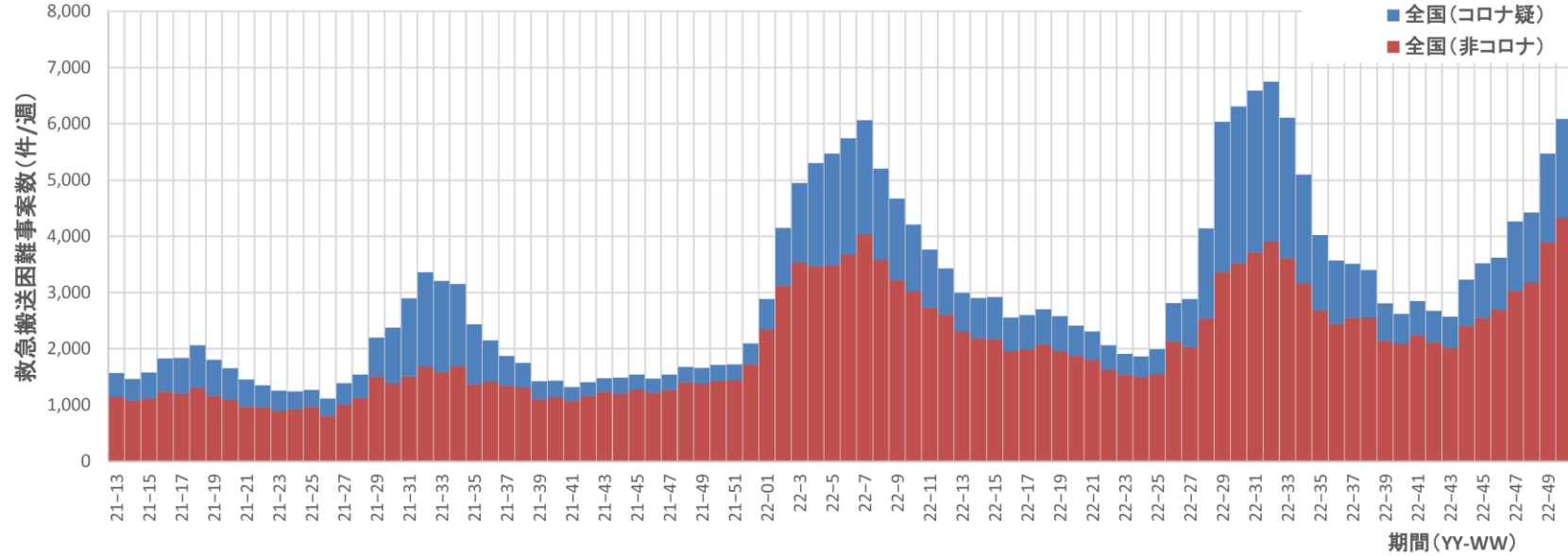
* 「トレンド（傾向）＝「増加しているのか、減少しているのか、横ばいなのか」、レベル（水準）＝「多いのか、少ないのか」

† 前週までの値についても一部更新されている



※ ①新規感染者報告数についてはHER-SYSデータをもとに作成しているため、令和4年9月2日から9月26日まで、都道府県から届出があった場合には新型コロナウイルス感染症の届出の対象を限定することを可能としていることから、HER-SYSに報告された感染者数が都道府県から公表された感染者数よりも少なくなる可能性がある。
 ※ 人口10万対の人数は、令和3年12月4日までは総務省統計局における各年10月1日時点の人口推計の数値、令和3年12月5日からは令和2年国勢調査の数値により算出している。
 ※ 検査件数は、退院時検査等も含む検査の総数であり、令和4年3月21日以降は従来含まれている「PCR検査実施件数(地衛研・保健所、民間検査会社及び大学・医療機関の都道府県別集計)」に「抗原検査実施(検体採取)人数(地衛研・保健所及び大学・医療機関の都道府県別集計)」を追加。

コロナ疑い及び非コロナ救急搬送困難事案数/週、全国



救急搬送困難事案数のコロナ疑い及び非コロナの割合、全国

